

上海ジャーナリスト招聘事業＝掲載記事訳文  
掲載先：解放日報（紙面とインターネット同時掲載）

記事訳文：日本プロサッカーリーグ 浦和レッズ代表取締役社長淵田敬三氏  
““百年クラブ”を作る秘訣”

解放日報 記者 20151105 梁建剛



「我々のクラブチームの理念は、『地元地域と幸せを分かち合い』、『社会の一員として青少年の健全な育成に寄与し』、『地域社会に健全なレクリエーションの場を提供し』、さいたま市から世界に向けて開かれた“窓”となることです。そのため、我々が作りた  
いのは、強くて魅力のあるクラブチームです。地元地域が自慢できるチームであり、自立かつ責任感のあるチームです。」と、Jリーグの強豪浦和レッズの代表取締役淵田敬三氏は述べ、そして自信満々に「我々の目標は百年クラブづくりです」と胸を張った。

1993年に立ち上げたJリーグは、健全な試合運営と青少年選手の育成で有名である。設立当初から100年計画を策定し、百年続くクラブチームを作り、“あなたの町に、緑の芝生におおわれた広場やスポーツ施設をつくること”、“サッカーに限らず、あなたがやりたい競技を楽しめるスポーツクラブをつくること”、“「観る」「する」「参加する」”、“スポーツを通じて世代を超えたふれあいの輪を広げること”などのような目標を掲げた。このような目標がJリーグを一躍、アジアで最も成功したプロサッカー

リーグの一つに成長させた。さらに日本に 3 回のアジア優勝、2回ワールドカップベスト16に導き、世界でも強いチームとなった。

“百年クラブ”の目標は、中国国内のクラブチームも掲げたことがある、ただ、その鍵となるのは、健全なクラブ運営である。淵田敬三氏はクラブの財務レポートについて詳しく説明してくれた。「御覧のように、レッズはほぼずっと黒字を出しています。その中、チケット収入が一番大きい割合を占めています。その上、記念品、グッズ販売など収入を足すと45%に達します。個別項目で一番多い広告収入では、レッズのみでも71のスポンサー企業がついており、そのうち25社は地元企業です。お分かりになるように、チケット、グッズ、広告などは全て地元地域社会、サポーターと親密で切り離せない存在です。浦和レッズクラブは地元地域社会に根付き、サポーターにと共存しているクラブチームであり、企業のものではありません」

淵田敬三氏曰く、チームが一番自慢できるのは、日本一のサポーター団体であり、クラブチームが地元地域社会に溶け込んでいることである。クラブチームには“heartfull Club”があり、16歳未満であれば、違う年齢、性別、レベルの子供が、全部ここでサッカーの楽しさを楽しめる。クラブチームは“redslant”という総合スポーツ場を建設し、地元地域住民にサッカー場、テニス場、キャンプ場、農地など各種施設を提供しており、これによって地元社会と新たな関係づくりができた。2014年4月から2015年3月までの間のみでも、クラブの“heartfull Club”は587回の活動を行い、合計56,513人が参加した。浦和レッズの選手、監督、コーチ、さらに淵田敬三氏本人も、年間最低10回は活動に参加している。

一線チームに対する巨額な投資は、短時間でチームの成績を大幅にアップさせることができるが、チームの健康的な“造血”機能を作ることはできない。完全なセカンドチームの構築こそが、チームが継続的に発展させる方法である。淵田敬三氏の紹介によると、昨年チームには58億以上の収入があったが、そのうち1億円を“heartfull Club”、

1.5 億円を“redslant”に投入した。そのほか、女子サッカーチーム、サッカー学校への投入の4.3 億円（約 2,200 万人民元）全てが、目先の見返りを無視した投資である。

淵田敬三氏は、「全てのJリーグのクラブは“日本サッカー教祖”である川淵三郎氏の考えに従い、成績への追及のみならず、スポーツを通じて、体を健康に、日本を幸せに、スポーツ、サッカーが人々の生活の一部として、ずっと継続していく」と力強く述べた。

以上

\*本文の記事・写真は、新聞社、執筆者からの許可を得て翻訳の上掲載しています。

翻訳文責：国際広報部主任研究員 藤原慎二